



〈愛読テーマ〉

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

発行日:2024(令和6)年3月27日 第45号 発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番 三島多聞

高山市鉄砲町6 TEL 0577-32-0776

web <http://hidagobo.jp>

✉ takayama@higashihonganji.or.jp

響 存

「今日は〇月〇日、〇〇の日です」。

娘を幼稚園に送るために車に乗りエンジンをかけると、その日が何の日かを教えてくれる。娘はそれを聞くのが楽しみで、今日は何の日だろうとワクワクしながら車に乗るのだ。「2月29日はうるう日」「3月1日はマヨネーズの日」「3月5日は珊瑚の日」。すると「うるう日ってなあに?」「なんでマヨネーズの日なの?」「珊瑚ってなあに?」となる。珊瑚は海にあって、ニモが隠れたりしたやつだよとか、水族館にもあったよねと話すと、ああ~あれのことかとわかるときはいいのだが、うるう日は4年に1回2月29日があるんだよ。「なんで?」。1日が24時間ちょっとあるから4年に1回2月29日で調整するんだよと言っても、なかなか納得するようには話せない。しまいには、ふ~んとわかってはいないけどもういいやという感じで別の話題に移っていく。

ある時はテレビでの外国人という言葉に、「外国人って何?」とはじまった。外国人は外国の人だよという、「外国って?」。外国は日本以外の国だよ。海の向こうの国だよ。という、「北海道?」。確かに北海道は海の向こうやけど日本だ。幼稚園で英会話を習っているの、外国人は英語とか日本語以外の言葉話すんだよ、あと英会話の先生って髪の色とか目の色とか違ってると、外国人は日本人と見た目も違ってたりするよ。という「〇〇ちゃんも〇〇ちゃんも(幼稚園の友達)みんな違うよ。私とお父さんもお母さんも違うよ」といわれ、そうだね

一みんな違うよねと大笑い。日本人と外国人という言葉、違いから知らないうちに壁を作っていたのかなと考えさせられた。子どもに教えるということも、どのような言葉を使えばより伝わるかと、難しいなと思いながら話をするが、その子どもから教えられ

■伝えることを意識して届ける教化を「響」発行

本年度の広報部会は、伝えることを意識して届ける教化をテーマに、奇数月には『ひだご坊』を発行しています。読んでおられますか? 今年の1月には、400号の節目ということでカラーで高山別院の1年の行事を写真で載せたり、3月には、東日本大震災後に様々な活動をされている岩手県の石田悠晃氏に執筆いただき、また裏面の「家族で語ろう」では、僧侶であり医師である岸上仁氏に、教えを通して医療の現場で出会った方々を訪ねて、問いかけをいただいています。

また3月8日には、2023年3月まで「市民時報」紙に連載されていたミニ法話「響」の100話を超える中から9話をおさめた小冊子を発行しました。響という漢字は、上の郷は御馳走を真ん中に二人が向き合っている姿、そこに音があります。お勤めをするときでも、周りに何も無い広い場所と、壁にかこまれた場所では同じ声でお勤めしても聞こえ方が違うと思います。音が響くということは壁などにあつ

て響く。壁でも人でも当たるものがなければ響きません。響という漢字も人と人とが響きあい響かせあっている姿を現しているのではないのでしょうか。

安田理深先生は「南無阿弥陀仏という言葉は、目覚ました言葉であると共に、目覚まされた言葉である。つまり目覚ましめたものに対する応えという意味があると思う。だからこれは独覚ではない。呼びかけに対して応答するというものであり、打てば響くというものである。我々を打つ言葉であると共に、我々に響いた言葉である。南無阿弥陀仏は根源の言葉であると共に、呼応の言葉である」とお教えくださっています。

『ひだご坊』も小冊子「響」も執筆者の響いた言葉がつつらわれています。その言葉が広報部員にも響き、それを一人でも多くの方に届けられればとの思いで発行しています。各御寺院様には目を通すだけでなく、小冊子「響」は御門徒におすすりいただき、御門徒さんの声を広報部会までお伝えいただければと思います。その声を今後の発行物などに生かし、より伝わるものをお届けできればと思います。

子どもに教えながらも、なんで? どうして? と問いをもらい、子どもの姿、言葉からも教えられる。届ける側、受け取る側という一方通行ではなく、受け手がまた伝え手となっていく。お互いに響かせあう存在。そのことが、教えが響き広がっていくことになるのではないかと思います。



1冊 200円(税込) お問い合わせは高山教務支所まで

広報部会 幹事

高山2組 誓願寺住職 澤邊恵亮



★センター・別院からのお知らせ★

三日のご坊さま一書の奉納 お勤め後、真宗公開講座前に執り行います

4月3日(水)午後1時半からの三日のご坊さまのお勤め後、書道家の古林真美子さんによる、聖徳太子の「和を以て貴しと為す」の精神を世界の人々に訴え、世界の平和を祈願する、書の奉納式が行われます。

同日に開催されます、三日のご坊さま、書の奉納式、真宗公開講座と、ご参加くださいますようご案内いたします。



飛騨御坊ボランティア委員会 別院彼岸会でおはぎ販売



コロナウィルスの影響もあり中止していたおはぎ販売が、5年ぶりに復活いたしました! おかげさまで、連日完売の大盛況でした。

今回の売上金はボランティア委員会を通じて、能登半島地震への支援に活用してまいります。

ご協力頂いた皆さま、ありがとうございました。売上金から、144,660円を支援金として活用させていただきます

各お寺の施本に! ミニ法話集「響」発行

「高山市民時報」で連載し好評を博したミニ法話「響」が冊子になりました。120回の連載の中から9話を収録。

<執筆者> 三島多聞(輪番)・伊達晴香(称讃寺)・達 顕信(元教務所員)・帰雲真智(還来寺)・四衛 亮(不遠寺)・白尾公信(了心寺)・窪田 純(圓徳寺)・三島大進(真蓮寺)・江馬雅臣(賢誓寺)

1冊 200円 お申し込みは、高山教務支所(0577-32-0776)まで。

本山荘川桜開花



春の法要の頃には、見頃となります。

現代の問題講座(伝道部会)

飛騨御坊真宗教化センター 現代の問題講座

認定NPO法人 Dialogue for People 副代表 フォトジャーナリスト

安田菜津紀 講演会

紛争地、被災地に生きる人々の声
～取材から見えてきたこと～ ※パレスチナ取材の報告もあり

4月6日(土) 午後2時(午後1時30分開場)

会場: 高山別院(高山市鉄砲町)
入場料: 500円(高校生以下は無料)終了後サイン会を予定
チケットは飛騨地域の天台宗寺院、別院事務所にて販売
高山町のブックストアオーではチケット・関連書籍を扱っています

安田菜津紀(やすだなつき)

1987年神奈川県生まれ。認定NPO法人 Dialogue for People(ダイアログフォーピープル/D4P) フォトジャーナリスト、同団体の副代表。16歳のとき、「国境なき子どもたち」発祥のレポーターとして、カンボジアで貧困にさらされる子どもたちを取材。現在、東南アジア、中央、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。著書に「国境と戦争、父の手紙 ルーツを巡る旅の先」(ヘウレカ)、他。上智大卒業。TBSテレビ「サンデーモーニング」にコメンテーターとして出演中。

お問い合わせ: 飛騨御坊真宗教化センター TEL: 0577-32-0776
※当日駐車場は無料ですがスペースに限りがあります。ご了承ください。

4月6日(土) 午後2時 入場料:500円

今回は、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんをお招きして開催されます。紛争地そして被災地と、現地に赴き、実際に目にされたお話を聞きます。当日券もあります。是非おこし下さい。

初まいり式(青少幼年部会)

初まいり式

初まいり式は、私たちが願って、心豊かに歩んでほしいと願ったため、この世に命を授けられた子どもたちに感謝の気持ちを込めて、私たちが願いを込めて、100年の歴史を振り返りながら行われます。

2024年 5月12日(日) 募集対象 3歳以下のお子さま
午前11時～11時45分 先着30家族
参加費(御仏前) 3,000円
会場 高山別院 本堂 (高山市鉄砲町6番地) 駐車場ご利用いただけます
主催 飛騨御坊真宗教化センター 青少幼年部会

5月12日(日) 午前11時

誕生した子どもとともに、家族そろってお寺にお参りいただく行事です。先月、チラシをお配りしております。縁ある方には是非おすすりください。

Q 真宗の盛んな高山の地でも変化はありますか？

【三枝】 お内仏のある生活の減少

全国的な傾向だと思いますが、ここ高山でも家の構図が変わってきています。お内仏のある生活というのがどんどん弱ってきています。核家族化ということのなかで、お内仏や教えに触れない世代が増えていることを肌で感じています。

【三木】 自分が大切にしてきた教えを伝えたい

門徒さんもそのことを実感しています。先日、ある門徒さんからひさびさに報恩講を勤めてほしいと言われました。お参りに行くと、よそに住んでいる娘さんやお孫さんに報恩講という仏事を伝えたいということで、この勤行本一冊ずつに一人ひとりの名前を書いて渡してみえました。「自分が大切にしてきた教えを伝えたい」という一心でやっておられました。そのようなお姿を見て大変嬉しかったです。

【三枝】 在家報恩講の衰退

御遠忌法要教化の課題として「伝える・伝わる」ということが表明されています。お内仏に向き合う生活が大切にされ、そこにこの勤行本が何か役目をもっていけたらいいと思います。

飛騨地域では、戦後、理由はよくわからないのですが、各家々の在家報恩講が一気に減少したと聞いています。それに代わるものというわけではないのですが、お盆参りが盛んになっていったようです。高山教区は教勢調査の結果では良好な数値が多く出ており、全国的にも真宗の盛んなところと言われることがあります。しかし、在家報恩講が衰退してしまっているということの一点から、本当に真宗が盛んなのかと考えさせられます。

報恩講をこれからの時代になかった形で取り戻していく、そのためにこの『正信偈同朋唱和集』が大いに

活用されていくことが期待されます。この本は、発行して終わりにしてはいけないと思っています。

【内記】 相続されてきたご回壇

昔から相続されてきているものとして、ご回壇という行事があります。同朋会という形の集まりができてからは全体的に縮小しているということがあります。お寺を会所としたものが圧倒的に多い。お寺がないところはお講という形で運営されているケースがいくつかあります。

Q 最後に、発行を終え、今後について思うところは？

【三木】 大切に、けれど身近なものとして使ってもらいたい

多くの方の協力でようやく出版することができました。しかし、これで完成とするのではなく、やはり必要に応じてリライトしていくべきものだとも思っています。あとは、勤行本ですので大切に扱ってほしいの

はもちろんですが、家族の集まる居間などに置いて何気ないときに手に取ってもらおうなど、身近なものとして使っていただきたいです。

【内記】 勤行一教えの言葉に日々触れていく歴史

同朋会運動が始まり、先輩方が同朋奉讃という画期的なものを定められました。今になって、そういう願いを継承するということの大切さを改めて感じています。これまでその時々表現、伝達手段を含めて更新してきたのですから、当然次の表現が出てきてい

いでしょう。まずは、声に出して読んでほしいです。声の響きで正信偈や和讃を伝え直してほしいのです。私たちには、勤行という形で残された歴史があり、教えの言葉に日々触れていくという形を整えてもらっています。その中に今の自分もあります。それはこちらが思っている以上に大きいことのように感じるのです。(了)

内記 浄・三木 朋哉 / 『正信偈同朋唱和集』編集委員 三枝正尚 / 御遠忌事務局員 (当時)

「南無阿弥陀仏は浄土真宗」と明らかにする「正信偈同朋唱和」

蓮如上人は、「御文」の中で、「当流・一流・当宗」の言葉を多用し、「南無阿弥陀仏」をどのような流れに立って伝えるのか、また、それはどのような「南無阿弥陀仏」なのか、繰り返し明確に示されています。「御文」によってそのように示し伝えていかなければならないという強い使命感が、蓮如上人にはあったのだと思います。

私たちは念仏といえば、七高僧を通して親鸞聖人が明らかにされた「本願の念仏なのだ」という認識はあるのですが、世に広まる念仏はそればかりではありません。浄土真宗でなくても、浄土宗や天台宗、新興の教団など、「南無阿弥陀仏」と称える教団はあります。「南無阿弥陀仏」と称えれば禍が無くなくなるとか、死んでから極楽に生まれるためだとか、帰依する信仰が無くても、「呪文」のようにして「南無阿弥陀仏」と称える人も多いでしょう。さらには、当流と言いな

ながらも、異なった念仏を伝えようとする僧分はどの時代にもいたようすし、「本願の念仏なのだ」という認識はあるとは言いましたが、今日の我々自身、果たして本当にそのように言えるのでしょうか。

そのような私たちであるからこそ、常に、共に、本願の念仏なのだ確かめていく手立てとして、「正信偈」の唱和が生まれてきたのではないのでしょうか。様々な念仏がある中で、我々が帰すべきは「浄土真宗」の念仏なのだ明らかにしていくことの使命を、「正信偈同朋唱和」は担っている。

“自分は何宗なのかよくわからん”というおじいちゃんがあった。「お勤めは？」と聞くと、「きみよーむりよーじゅによーいーや」と言われる。「そりゃー浄土真宗やな」ということになる。同じ「南無阿弥陀仏」でも「浄土真宗の南無阿弥陀仏」とであると気づく。そしてそこからさらに、「南無阿弥陀仏は浄土真宗なんだ」ということが明らかになっていけばいい。

だからこそ「正信偈同朋唱和」は、とつてもとつても大事なんですよ。

耳なれずめ



飛騨御坊ホームページ『ひだご坊一口法話』4月

小倉 輝穂氏 (朝日高根組圓城寺住職)
石井 宗氏 (朝日高根組西教寺住職)



WEB一口法話はこちら

※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

真宗公開講座一第6・7回ご案内

第6回 4月3日(水) 15:00～ 高山1組真宗の会主催
「誰のためのお墓なのか」海 法龍氏 (東京教区長願寺住職)

第7回 5月12日(日) 14:00～ 高山1組真宗の会主催
「佐奈姫さまとお念仏」三島多聞氏 (高山別院輪番)



飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2024年4月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場
1	月			
2	火	13:30	☑ 青少幼年部会	センター室
3	水	13:00 15:00	別 三日の御坊 法話:井野了慧氏 (教務支所書記) ☑ 真宗公開講座⑥ (講師:海法龍氏)	御坊会館
4	木	9:30	教 得度事前研修会	研修室
5	金	7:00	別 半日華 組 古城組出張子ども会	誓願寺
6	土	14:00	☑ 現代の問題講座	本堂
7	日			
8	月	15:00	☑ 育成部会	研修室
9	火	終日	教 高山教務支所事務休止	
10	水	13:30	教 高山支部坊守研修会	研修室
11	木	13:00 14:00	別 大谷婦人会追弔会・総会 法話:三島輪番 教 解放推進協議会輪読会	本堂 センター室
12	金	13:30	組 高山2組組会	研修室
13	土	7:00 7:00	別 前住上人ご命日 別 半日華	本堂
14	日			
15	月		春の高山祭	
16	火	15:00	教 教区門徒会 (組織会) jhkl;dfbv	岐阜高山教務所

※両日とも駐車場は混雑いたします。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
17	水			13	月	13:30	☑ 解放推進協議会「公開講座」(旗)
18	木			12	日	11:00	☑ 初まいり式
19	金			15	水	12:00	☑ 東海連区坊守研修会 (大垣)
20	土	13:30	組 清見組同朋総会	12	日	14:00	☑ 真宗公開講座⑦
21	日			15	水	19:00	☑ 高山2組若声会
22	月						
23	火	19:00	☑ 朝日高根組 企画会議懇談会				
24	水						
25	木	13:00 19:00	組 高山2組坊守会 教 教化研究所				
26	金	7:00 15:30	別 半日華 組 高山1組末日会				
27	土	13:00	別 親鸞聖人御逮夜				
28	日	13:00	別 親鸞聖人御命日 法話:佐藤義晃氏 (了徳寺住職)				
29	月						
30	火						

2024年5月 ※中旬までの掲載とし、定例行事は省きます。